

「伝え合い，学び合う児童の育成」

～授業における学び合い活動の工夫を通して～

I 研究の内容

1 研究仮説 授業の中に，集団的な学び合い活動を取り入れることにより，子どもたちは，思考力・判断力・表現力を高めることができるだろう。

2 研究の方法と内容

(1) 学び合い活動の工夫に視点を当てた授業研究

研究授業（低学年ブロック，高学年ブロック各1本）一人一実践授業

(2) テーマに関わる学習会

(3) 目指す授業（子ども）像について

(4) 特別支援教育の研究

3 研究実践

(1) 学習会

ア 「新学習指導要領と本校の校内研のテーマに関わる学習会」

講師 山梨県教育委員会義務教育課指導主事 鷹野 晃先生
 峡東教育事務所指導主事 嵩本三夫先生

イ 思考力・判断力・表現力を高めるための学習活動について

(2) 目指す授業（子ども）像について

伝え合い，学び合う児童の育成で身につけさせたい力を，自力解決，集団追究などの学習過程に分けて，低，高のブロックごとに作成した。

(3) 特別支援教育の研究

「通常学級における発達障害のある子どもへの具体的支援方法について」

講師 総合教育センター特別支援教育部研修主事 上野真美先生

(4) 研究授業

ア 低学年ブロックの研究

3 学年算数「四角形を調べよう」 金井巖教諭

イ 高学年の研究

5 学年算数「面積の求め方を考えよう」 山宮武徳教諭

(5) 授業実践

ア 1 学年国語「ことばって，おもしろいな」 広瀬美穂教諭・茂手木ゆう子教諭

イ 2 学年算数「形に名前をつけよう」 廣瀬みどり教諭・田邊真由美教諭

ウ 4 学年算数「広さを調べよう」 武井麻子教諭・細川なお美教諭

エ 6 学年国語「学習したことを生かして」 小林由紀子教諭

オ すみれ・つくし学級「ゲームを楽しもう」「パネルシアターの発表をしよう」
「こんなときどうする」 松井仁美教諭・三枝直美教諭

II 成果と課題

1 成果

- ・低、高学年の研究授業では、学び合うための環境（教材，指導内容等）がとてもしっかりしていた。また，個々の児童の実態把握が確実で，思考，判断，表現力を高めることができた。
- ・新しいテーマとなったので，早めに指導主事をお願いし学習会を開いたことは，細かい分析も頂けたので，一年間の見通しを持つ上で大変参考になった。
- ・新学習指導要領についても，学習会を開いたり，指導主事の先生に詳しく説明して頂いたりする中で，学習を深めることができた。
- ・学び合い活動を主の課題にすえることは，授業規律をはじめ民主的な学級集団，表現力や聞く力など，児童の力がないと進められない。聞き方，話し方，発表しやすい仲間作りなど，日頃から意識して指導をしてきたことで，どの学級でも優れた学び合い活動ができていた。
- ・学び合い活動を仕組むことで，自分の考えを持つこと，発表することに自信がついて，意見を発表できるようになってきた。また，話し合っただけでわかったということで子どもたちにも満足感が感じられ，学習に対する意欲も高まってきている。
- ・普段，自らの考えを発表しない子どもにも発言する機会が与えられ，学級全体の力を伸ばすことにつながった。

2 課題

- ・一斉指導に比べ，時間（準備，授業）が多く必要となる。また，繰り返し実践しなければ力とならない。時間の確保は難しいが，学び合い活動を仕組み，数多く実践していくことが大切である。
- ・話し合いのモデルがあると，子どもたちが話しやすくなると思うので考えていきたい。
- ・目指す授業（子ども）像については，研究授業，授業実践，児童の実態をふまえて，より本校の実態と，身に付けさせたい力から見直し，よりよいものにしていく必要がある。

III 成果物

- 1 研究授業，授業実践の指導案 7 点
- 2 目指す授業（子ども）像

（研究主任 山宮武徳）